

mamacha music column

# Najki's Eye

最終回

vol.6 HY



内記 章  
NAIKI AKIRA

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後音楽プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員兼任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校の講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイターやプロモーション等で幅広く活躍中。

(オフィスナイキ ホームページ)  
<http://office-naiki.com/>



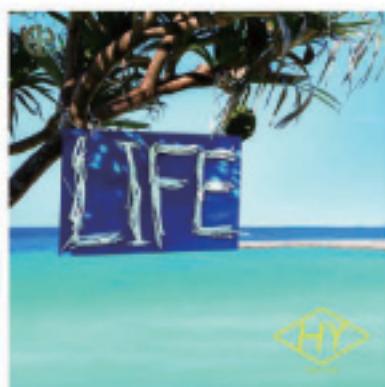
「北の音楽戦士たち」  
(中西出版)  
北の「音楽業界」今、昔と  
北の音楽戦士たち27人。  
豊かな土壤で育った北の  
音楽事情とは。

今年結成15周年を迎えるHYが7月15日にリリースした11枚目のアルバム「LIFE」。夏、海、沖縄、と散りばめられた言葉からも気分が盛り上がる。パーティーシーンにうつづけのアッパー・チル・ソングが目白押しで、夏の幕開けにひつたり一枚だった。その夏もそろそろ盛りをすぎ、季節は移ろう準備を始める頃となつたが、アルバムの中の曲がまた耳に残つてはならない。

HYと言えば男性4人女性1人のミクスチャーバンドだが、メンバーの誰もが詞を書けるし曲を書ける。ボーカルも、新里英之や仲宗根景がそれぞれリードを取れる、そういう意味では非常に多彩で楽しめるバンドもある。これまで主にラブソングを歌つてきたが、今回の「LIFE」にはそれぞれの曲に色々なストーリーが伺えた。なかでも仲宗根の「愛してあらず許しあうて」

というバラードは、ラブソングというよりも恋愛とか人類愛のようなものを感じさせられる、壮大なスケールの包容力に富んだ曲である。これは仲宗根自身が母になつたといふことから少ながらず影響しているのかかもしれないが、じつと聞いてみると包み込まれる温かさに満ちている。教わった愛をどう伝えていくかということの答えがこの曲だ。

また、ラストに収録されている「スマイル」は、2年前に独立した自分たちの経験から、勇気を持つ一步を踏み出すことの大切さを教えてくれる。あきらめずに頑張って行こう、笑顔の裏にある努力はきっと報われる。夏の喧騒が過ぎ去った後、かみしめるようにもう一度、このアルバムを聴いていると、そんなメッセージと大きな愛に育まれているのが感じられる。



「LIFE」

HY

ユニバーサルミュージック  
2015年7月15日発売